

「生きる力」とは何か(上)

平成20(2008)年・平成21(2009)年に改訂された学習指導要領に「生きる力」の育成という文言が使われ、学習指導要領の一つの狙いとして登場してきました。さらに平成29年・平成30(2018)年の改訂では、この「生きる力」をバランスよく育んでいくため、学習指導要領の見直しが行われました。

「生きる力」は、平成8(1996)年に文部省(現在の文部科学省)の中央教育審議会(中教審)が『21世紀を展望した我が国の教育の在り方について』という諮問に対する第1次答申の中で、

「我々はこれからの子供たちに必要となるのは、いかに社会が変化しようとして、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力など自己教育力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性であると考えた。たくましく生きるための健康や体力が不可欠であることは言うまでもない。我々は、こうした資質や能力を、変化の激しいこれからの社会を、[生きる力]と称することとし、知、徳、体、これらをバランスよくはぐくんでいくことが重要であると考えた。」

と記され、教育の新たな目的の一つとして上げられるようになりました。

「生きる力」を育む必要性と、その内容を学校関係者や教育関係者間で共有しなくてははいけませんが、その実態はどうなっているのでしょうか。さらに、学校関係者や教育関係者だけではなく、保護者、地域住民との間に十分な共通理解がされているのでしょうか。それについては、校長を務めて感じているのですが、いまだに課題克服までに至っていないと思えます。それは「生きる力」が理念であることからの理解のしにくさがあるのかもしれませんが、やはり学校から生徒並びに保護者、地域住民及び県民に対して、積極的に、上手に情報を発信できていないからだと思えます。

2016年10月、ロンドン・ビジネススクールのリンダ・グラットン教授は、『ライフ・シフト』を著し、そのなかで「人生100年時代」の生き方が、いままでの生き方と大きく変わることが示されました。このグラットン氏の100年ライフでは、人生が教育⇒勤労⇒余生というライフステージの流れから、マルチステージ化するといっています。彼女は「エクスプローラー」「インディペンデント・プロデューサー」「ポ



ートフォリオ・ワーカー」という3つのステージを提示しています。学ぶこと、収入を得ること、充実した生活を送ること、それらがどれも統合され、3つのステージは行き来ができるといっています。さらに、今後の「人生100年時代」で必要なものには、教育・多様な働き方、無形の資産と述べています。

人生100年時代を生き抜いていくには、教育にとっても大きな転換が必要とされます。高校を出て大学に進学して学んで一つの企業に務め続けることや、一つの職種を続けることのできない時代になっているのです。また、専門学校に進み、資格取得や技能習得を図っても、それで一生食べていくことが難しい時代になっているのです。

校長自身も、昨年度で満60歳になり、一旦は定年を迎えました。現在は再任用として校長を務めています。しかし、これからの30年にもおよぶ生き方を考えた時、年金問題や、いつまで働けるのかということで日々悩まされています。私が皆さんの歳の頃には、昼間は働き、夜は定時制高校に通い、一人で生活することを経験しました。生活費や学費を賄い、進学費用を貯める生活を送っていました。ですから高校時代、ほとんど遊んだ記憶がありません。しかし、充実した日々を過ごし、楽しい生活を送っていたと思います。

4畳半の狭いアパートに住み、仕事しながら学校に通い、この生活から抜け出すために勉強しました。嫌いだった勉強が好きになり、楽しい生活を送ることができたのです。その後、2部(夜間)の大学に通い、教員免許状を取得して教員になったのですが、残りの人生のなかで、教員で働き続けることはできません。働く意欲と体力があれば、リカレント教育(再教育)を受け、高齢者が働ける場で、新たな仕事に就かなくてはいけない時代になります。

AI化やロボット化は、いままで以上に進展し、人生は100年時代を迎えていきます。さらに、不確実で先の見えない時代が到来するのです。自己教育力を身に付け、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力が必要とされるのです。自己教育力をどのように身に付ければよいのでしょうか。いままでの高等学校の教育では、身に付けることを、あまり意識していなかったと思います。しかしながら、これからは「生きる力」を身に付けることのできる学校として、他校に先駆け「生きる力」の教育活動を図っていかなくてはなりません。

「生きる力」を推進していくための要素には、アクティブラーニング、リフレクション(振り返り)、探究があると思います。この三つの要素が一体化されるときに、「生きる力」が最大限に育まれると考えています。探究については、本校は教育委員会より『総合的な探究の時間』の全体的研究の指定を受けています。アクティブラーニング、リフレクション(振り返り)についても、授業等できいままで以上に取り入れていかなくてはならないと思っています。